

平成24年8月1日公益財団法人以降後初めての決算・事業報告となります。

旧財団時代(平成24年4月から7月の4ヵ月間)の報告は終了しておりますが、一部の記述、データ等については平成24年4月からの一年間分を対象としているものがあります。

10棟もの重要文化財建造物を擁し国の名勝にも指定される本園は、市民の憩いの場として、また内外の賓客を迎え入れる施設として、その価値はますます高いものとなっております。

平成24年度は公益財団法人に移行して初めての会計年度となり、新たな定款の目的である「国民共有の文化遺産である重要文化財建造物等及び名勝庭園の保存・活用を通して、歴史及び文化の継承とその発展を図り、潤いある地域社会づくりに寄与するとともに、日本の文化を世界に発信する」ため、公益目的事業およびこれが推進に必要な収益事業を行ってまいりました。

震災と原発事故の影響により入園者数を大きく落とした平成23年度でしたが、復活を期して臨んだ24年度も回復の足どりは鈍く、期待したほどの回復は見られませんでした。

最終的な入園者は413,000人余りとなり昨年度を6万5千人上回りましたが、これは桜の開花が例外的に早く3月にずれ込んだ(年度内に二度の花見ができた)ため、本格的な復活の気流には乗り切れていないと言うのが実情です。

そんな中で「こども」と「外国人」の入園者が増加していることは、これまでの取り組みが一定の成果をあげたものと考えております。

重要文化財建造物・庭園(名勝)の整備については、これまでに引き続き理事会のもと設置された名勝三溪園整備委員会の指導と助言に基づき、計画どおりすすめてまいりました。

主なものは重要文化財建造物の耐震診断、三重塔階段・苑路整備、大池水質浄化対策、内苑流れ整備工事等であります。

催事については園内の花をモチーフにした観桜会、観梅会、観蓮会、日本文化を紹介する観月会、蛍の観賞会、伝統芸能会、大茶会、こども向けにはザリガニつりや様々なワークショップ等を開催し、誘客に努めてまいりました。

その他、美術品の展示収集、広報宣伝活動、誘客営業活動、施設の使用普及活動にも積極的に取り組んでまいりました。

なお、近年顕著な伸びを見せているウェディング関連の利用については、披露宴の開催が95件、庭園前撮り撮影は実に534件を数え、貴重な収入源となっております。

詳細については別添をご参照ください。

1 入園者の状況（資料1㉔参照）

震災以来低迷する機運を払拭できず、また天候（ゴールデンウィーク後半の雨、夏場の高温続き、年末から年明けの寒波襲来）や日中間に漂う問題など社会情勢の逆風にさらされ、2月観梅季までは苦戦が続きました。しかし3月は一転、記録的に早く桜が開花したことで空前の8万人を超える入園者があり、最終的には昨年を大きく上回る413千人の入園者を記録しました。40万人台を回復したのは2年ぶりです。

震災と原発事故の影響で大きく落ち込んだ外国人入園者数も予想を上回る速さで回復しており、入園者に占める割合は過去最高となりました（4.3%）。

こども入園者についても各種ワークショップや子供向けイベントが成果をあげ、大きく数をのばしております。

平成24年8月から平成25年3月まで入園者総数 260,625人

〔内訳〕 有料入園者 194,447人

入園料免除者 66,178人

年度入園者総数 413,994人（348,537人） <前年度比119%>

〔内訳〕 有料入園者 315,281人（271,066人） <前年度比116%>

入園料免除者 98,713人（77,471人） <前年度比127%>

※ 外国人入園者 17,607人（10,438人） <前年度比169%>

※ こども入園者 17,316人（12,656人） <前年度比137%>（ ）内は前年度

2 公益目的事業

(1) 重要文化財建造物及び名勝庭園の維持管理（資料5㉔参照）

昨年度に引き続き「名勝三溪園整備委員会」を開催し、その助言と指導を受けながら年次計画に沿って整備を進めてまいりました。

① 文化財等の修理

ア 重要文化財建造物全10棟について「耐震性に関する耐震予備診断」を実施しました。

イ 重要文化財臨春閣の廊下床下緩み補強、外壁漆喰塗り剥落修理、栓皮茸部分補修のほか、ハクビシン侵入により小屋裏に堆積した糞の除去、清掃、消毒、屋根破風尻隙間の閉塞等を行いました。

ウ 旧矢箆原家住宅家床下緩み修理、建具修理等を行いました。

エ 白雲邸の築地塀の破損がすすみましたので、漆喰の塗りなおし、下地（木摺り）補修、防腐剤塗布などを行いました。

オ 横笛庵突き上げ戸、蓮華院下屋庇化粧押え、春草廬樋受などの小破修繕を行なうとともに、臨春閣・白雲邸・月華殿・鶴翔閣の障子を張替えました。

カ 臨春閣など古建築の屋根は多くが植物性の素材で茸かかれており、屋根環境を良好に保つことは保存管理上最も重要と言えます。本年度も専門業者に委託し、屋根面に付着堆積したり、樋に詰まって排水不良の原因となっている落ち葉の清掃等を行いました。

キ 蓮華院に害獣が侵入した形跡が確認されたため、専門業者に委託し捕獲用の罠を設置、ハクビシン1頭を捕獲しました。

② 文化財庭園の整備

ア 流れの修理（国庫補助事業）

内苑流れ上流部（天授院周り）において、雨落ち等の排水不良により護岸裏に水が回るなどの傷みが生じていたため、平成23年度試掘調査結果を基に修理を行いました。また、外苑流れについても同様に経年劣化が進行しており、後年の整備による意匠の変更も見られるので、詳細に調査し整備にかかる設計をまとめました。

イ 崖面対策工事（国庫補助事業）

前年度に引き続き、崩落の危険性が高い白雲邸倉付近の崖面について崩落対策工事を行いました。

ウ 植栽整備（国庫補助事業）

古写真等を参考に前年度「山林部の植生景観整備計画」を策定しましたが、同様に「庭園部の植栽整備計画」を策定しました。また、これらに基づいて、臨春閣第三屋北側や三重塔東側の植栽整備工事を実施しました。

エ 三重塔周辺園路の整備工事（国庫補助事業）

表土の流出および階段石の毀損等により、歩行上の安全性が損なわれていた三重塔周辺園路(階段)の整備を行いました。

オ 大池アオコ対策（国庫補助事業）

近年、アオコが発生し美観を著しく損ねる大池について前年度に引き続き水質等の調査を行うとともに、水質低下の要因と考えられる鯉等の影響を調べるための試験区を大池内に設置しました。

カ 大池埋立部等の調査

かつて水質浄化槽を設置するため埋め立てられた大池の東岸や、土砂の流出等により手すりが傾倒していた大池西岸の状況を試掘調査により確認し、整備計画の検討材料としました。

キ 日常的環境の整備

お客様が気持ちよく観覧できるよう、苑路の不陸・段差整備、マツクイムシ防除消毒、サクラ・ウメ・ハナショウブ等の育成、庭園諸施設の更新・整備、構築物の小破修繕等日常的な環境整備を行いました。また、台風4号で破損した正門門扉を修理しました。

③ 名勝三溪園整備委員会の開催

理事会のもと設置された「庭園」「建築」「植生」「地盤工学」「歴史」「湖沼生態学」分野の識者による名勝三溪園整備委員会を開催し、事業の計画、修理方針、施工方法、事業報告などについて審議するとともに、適宜個別の現地指導を受けました。

ア 平成24年11月27日第2回委員会を平成24年度事業の中間報告を行うとともに、平成25年度事業計画、年次計画について審議を行い、承認を得ました。

イ 平成25年3月12日第3回委員会を平成24年度事業の中間報告を行うとともに、平成25年度事業計画、年次計画について審議を行い、承認を得ました。

(2) 重要文化財建造物及び名勝庭園を活用した伝統文化の振興

① 名勝三溪園の観覧

創設者原三溪の業績やひととなり、及び三溪園の歴史や伝統文化を後世に伝えるため、重要文化財をはじめとする古建築と、これらが自然とあいまって創り出す美しい景観(名勝庭園)を来園者の観覧に供しました。

② 催事の開催(資料11☞参照)

季節の花や日本の伝統文化などを素材に、三溪園の歴史や魅力をはばひろく伝えるため、各種市民団体やボランティアの協力を得ながら様々な催事を開催しました。

本年度の特徴として、こどもの来園者増加を意識した、ザリガニ釣りや初心者向け茶道講座、合掌造りペーパークラフト作りや瓦の拓本作りなど「親子で楽しむ体験型の催し」を行ったほか、教育委員会主催の子ども向け事業「夏休み子どもアドベンチャー」に初めて参画、「本物って、スゴイ！日本の昔体験」と題して歴史的建造物や日本画の本物の迫力に触れさせる体験や文化財保存管理への理解促進を目的とした企画を実施しました。また、建築博物館としての一面をも広くPRするため、学識者を講師に迎えた講演会や横浜市主催の「フォト・ヨコハマ 2013」関連企画として、女性向け写真雑誌社の横浜撮影ツアーの会場として園内を提供し、若い女性写真愛好者に向けたページの作成にも協力しました。

③ 展覧会の開催(資料13☞参照)

三溪記念館では三溪自筆の書画やゆかりの作家作品から所蔵する作品をその時どきのテーマに合わせて展示替えし常設展示しました(所蔵品展 別添資料)。

また、「フォト・ヨコハマ2013」の連動企画展として「岡本茂男写真展 - 三溪園の建築とともに」を行いました。

なお、広島県のふくやま美術館において、西日本では初となる所蔵品展「横浜三溪園の名宝」が行われ、所蔵品約80点を貸出しました(9月22日～11月25日 前期後期 入場者数16,083人)。

④ 美術品等の収集・保存活用(資料18☞参照)

三溪記念館収蔵庫の環境調査・除塵防黴施工、臨春閣天楽の間小襖の破損修理を行いました。

⑤ 建物の使用(資料19☞参照)

白雲邸など古建築9棟及び鶴翔閣1棟を原則として文化的活動を行う個人・団体等に優先的に貸し出しました。(計79件)

(3) その他公益目的を達成するための事業

① 入園者の誘致(資料21☞参照)

機動性や経済性の面で効率的であり、訪問先の感触も良いことから市内の観光施設との連携(同行)し、首都圏を中心に・東海、北陸、関西、東北、中国、九州地区の旅行会社へ訪問営業しました。また、外国人誘致商談会へ出展するとともに、MICE誘致や観光資源開発、アジアインバウンドなどの市内施設連携部会にも参加し、それぞれの動向やニーズなど情報の集積にも務めました。

② 広報宣伝(資料22☞参照)

今年度もホームページとチラシ・ポスターを中心とした広報を展開するとともに、各種メディアへの積極的な「情報発信」と「取材の受入れ」を行い、記事掲載や放送等でのPRに力をいれました。

また、他機関との連携事業や既存イベントの中に新たな企画を盛り込むなどし、話題性を意識した広報に取り組みました。

③ 市民協働

ア 三溪園におけるボランティアの活動の場を広げるため、従来から実施してきた①ガイドボランティアのほかに、②旧矢筈原家住宅を拠点にその管理や年中行事、体験型の催しを企画・実施するボランティア、③庭園の管理を行う作業ボランティアを新たに募集しました(※)。

※庭園の管理作業ボランティアは約60名が登録し、活動日数約60日、延べ人数は約550人に達しました。

イ 昨年度に引き続き、造園系専門学校や大学の実習生を受け入れ、植栽の剪定や下刈り作業、竹垣の修理など庭園管理作業の一部を実技研鑽の場として提供しました。延べ日数17日、延べ人数 約340名

ウ 「原三溪翁伝」の翻刻・出版をきっかけに発足した原三溪市民研究会の活動に対し、資料の提供、助言などの協力をしました。

④ 教育・普及活動

ア 大学より要請を受け、博物館学芸員実習生2名を受け入れました。

イ 将来を担うこども入園者増を図るため、学習素材としての三溪園を授業のカリキュラムに取り入れていただくよう、学習プログラム案の作成や施設整備など受け入れ体制・環境づくりの検討に着手しました。

3 収益事業

公益目的事業推進のため来園者の利便設備として駐車場、茶店(賃貸)、茶席、ミュージアムショップ等を運営するとともに、鶴翔閣および庭園については披露宴・展示会・パーティー・撮影会等幅広い目的にも貸し出しました。

本年度の目玉は大手自動車会社による「展示・演奏・講演・食事・夜景」を融合した一大パーティーの利用で、鶴翔閣を主会場に11月の3日間を夜間貸し切りとしました。招待者250名を超え、三溪園の魅力発信の機会となったことはもちろん、前後の準備撤収を含め一週間で費やす大規模な利用は収入面でも大きな利益をもたらしました。

なお鶴翔閣の披露宴利用は本年度も95件を超え、利用料金の改定もあり、こちらも一層の増収に結びついております。また庭園使用もウェディング撮影の急速な拡大(前年度比340%)があり過去最高の収入を計上しております。(資料29頁参照)

4 協約事項への取り組み

横浜市との第2期特定協約(23-25年度)の第2年度として、次の3件を目標に取り組みました。

(1) 入園者数 24年度の協約目標 477,600人 結果 413,994人

広報、宣伝、イベントやワークショップ・展示の展開、HPの活用、商談会への参加、他団体とのタイアップ、子供向けワークショップ等々を実施し、目標数値には届きませんでした。41万人超となりました。

目標には掲げていませんが、増加に取り組んでいるこどもの入園者数は17,316人と昨年を大きく上回り、入園者数に占める割合も4.2%を超え、成果を上げております。

- (2) 事業収入 24年度の協約目標 2億6,900万円 結果 2億5,245万6千円
入園者数が目標数値に達しなかったことに伴い、事業収入も結果的に目標金額に至りませんでした。
23年度後半から駐車場使用料及び抹茶販売金額を改定、24年度からは鶴翔閣使用料の改定により効果があがっていますが、入園者数の回復が基本となりますので、一層の誘客に努めてまいります。
- (3) 施設運営支出5億円(10,000千円)の削減 結果 8,005千円(4億円)削減
建造物担当職員の補充採用停止、三溪記念館清掃業務仕様の見直しにより、5,000千円前後の削減を行いました。24年度から警備業務の仕様見直しを行うとともに25年度は体制見直し、三溪記念館第3展示室の期間閉室などにより目標達成を目指しています。

5 庶務の概要

- (1) 平成24年8月1日付で公益財団法人へ移行しました。
- (2) 平成24年8月1日第十二代三溪園園長に加藤祐三が就任しました。

(3) 理事会、評議員会

●理事会

- ①平成24年8月1日 11時20分～ 於 鶴翔閣

報告事項

公益財団法人への移行

議題

- ア 平成24年度事業計画及び予算(旧法人からの引継ぎの報告)
- イ 三溪園園長の採用
- ウ 規則等の制定について
- エ 臨時評議員会の開催について

- ②平成24年10月12日 10時30分～ 於 白雲邸

議題

- ア 平成24年度事業報告及び決算(旧法人4月～7月)
- イ 臨時評議員会の開催について

- ③平成25年3月14日 11時～ 於 鶴翔閣

議題

- ア 平成25年度事業計画及び予算
- イ 評議員会の開催について
- ウ 委員会委員の選任等について
- エ 就業規則の改正について
- オ 給与規程の改正について

●評議員会

①平成24年8月1日 13時～ 於 鶴翔閣

議 題

- ア 平成24年度事業計画及び予算(旧法人からの引継ぎの報告)
- イ 評議員の選任
- ウ 理事の選任

②平成24年10月26日 13時～ 於 鶴翔閣

議 題

- ア 平成24年度事業報告及び決算(旧法人4月～7月)
- イ 公益財団法人三溪園保勝会予算(平成24年8月～平成25年3月)

③平成25年3月25日 16時～ 於 白雲邸

議 題

- ア 平成25年度事業計画及び予算